

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

7月1日から始まった全国の小売店プラスチック製買物袋(レジ袋)の有料化がスタートした。石油から作られるプラスチック

は、この50年ほどの間に私たちの暮らしに無くてはならないものになった。しかし使い捨てのプラスチックごみによる海の汚染が地球規模で深刻化し、世界各国がレジ袋を有料化、日本でも有料化がスタートした。

だが、実際には環境問題には効果が少ないとの声があることも事実だ。プラスチックごみ全体でレジ袋の比重は2割、日本で年間200億本以上が生産されているペットボトルや食品包装用プラスチックなどは使用量を減らす具体的な行動が無いのも事実だ。無料

配布されたレジ袋は、簡易ゴミ袋や水分のある台所から出るゴミに使われたり、新型コロナウイルス対策として使用されたマスクなどを他の人との接触を避けるための袋となったり、ゴミ処理過程では火力の強い

役割を担うなど貴重なエネルギー源ともなっている。有料化に伴って、環境意識が高まった事もあり、国民の負担が日本の廃棄物政策に大きな影響を与える事を願うばかりだ。

## 身近な出来事の場面から 楽しむ生き方が大切だ

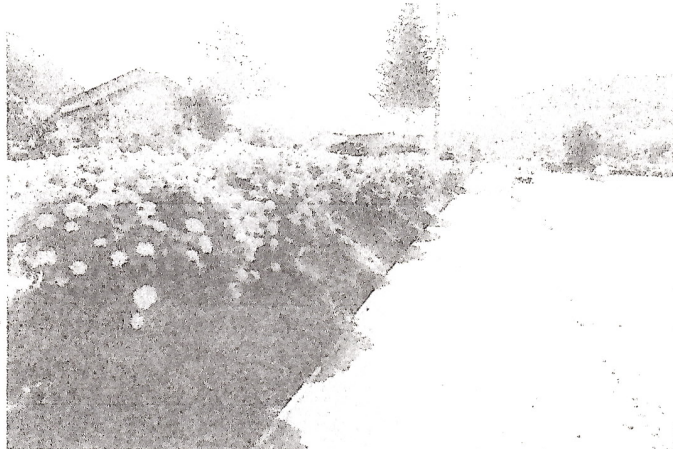
各地でアジサイが見頃だ。学名は「ハイドランジア」ラテン語で「水の器を意味する。花の色が移り変わり「7変化の別名」も。育った土地によって花の色を変え、突然変異を起こしやすい事もあ

り伊豆諸島に自生する原種カクアジサイを品種改良、ついにはヨーロッパに渡り、里帰りした多くの人を魅了する花だ。しかし江戸時代には「ユウレイバナ」などと呼ばれ、果実が無く、花には香りが無

く、むしろ毒もある花で、忌み嫌われ、女性に贈るにはふさわしく無いと、ひと昔前まで「冷淡・放漫・移り気」と呼ばれていた。今は、品種改良された花言葉も「家族・団らん・和気あいあい」と大きく替わり結婚式の装飾用の花にも用いられている。咲き誇る花を楽しむ時に、花の色ごとに花言葉が有るので別の視点で楽しむのも良いのかもしれない。青色は土壌の酸性度によって色付くので「移り気・浮気・白色は、どの色も受け入れられて変わることができると寛容」、ピンク色は、

「強い愛情・元気な女性」、緑色は、咲き始めの頃は緑色で「愛情・ひたむきな愛」と言われている。もし自宅に

植えるなら、どんな色の花を選ぶか楽しんでみませんか。(NPO法人信州地域社会フォーラム会員)



白馬村堀之内県道沿いのアジサイ花が醸し出す地域は魅力的だ